

ガイドが選ぶパワースポット8選

1st 医王岩

2nd 天上ヶ岳

3rd 箕面大滝

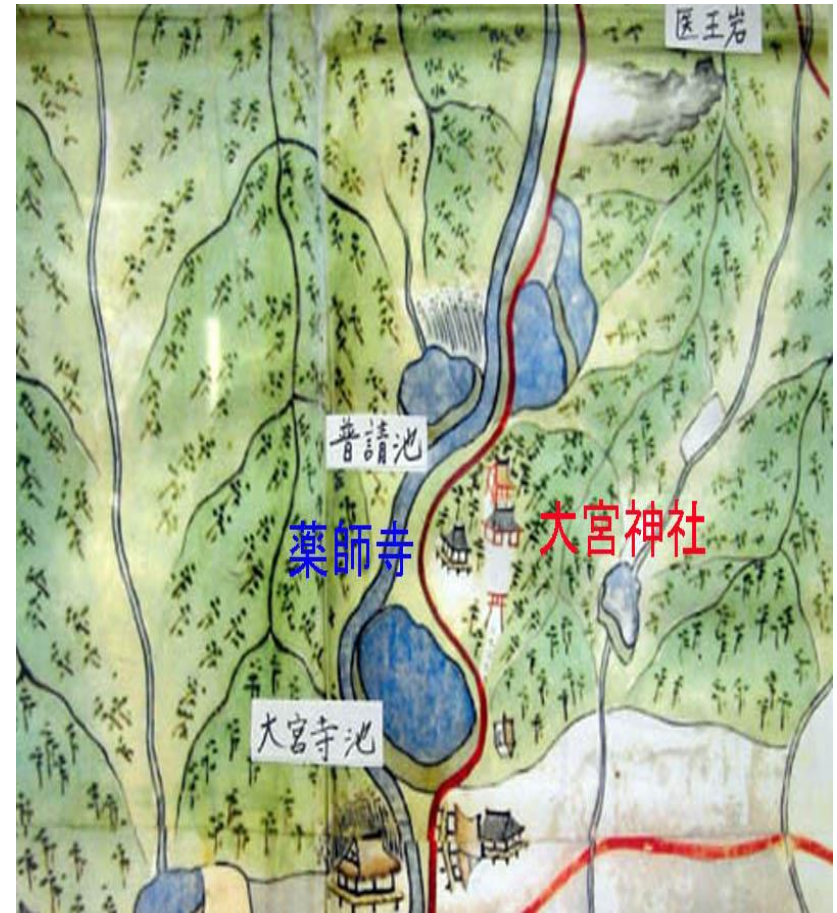
4th 大ケヤキ

5th 姫岩

6th 唐人戻り岩

7th 開成皇子 墓

8th しらみ地蔵

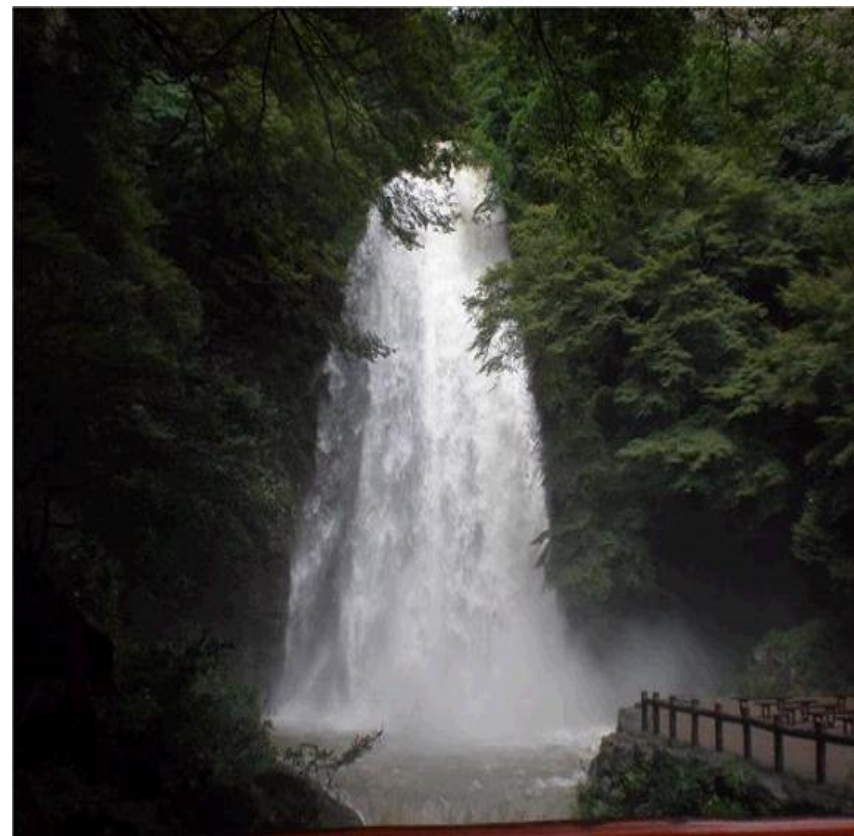


医王岩: 大宮寺の後にあり。自然石なり。高さ十三丈ばかり、またの名を薬師石ともいふ。播州静が窟石の宝殿の類なり。この所も大己貴・少彦名の二神生ますの地により、医王岩と称するか。この二神は医道の祖なり(薬師寺から北400m、古い時代から農耕神の誕生地として知られる高さ25m 3層の巨岩)。
元禄2年萱野郷三方立会絵図(右図)。

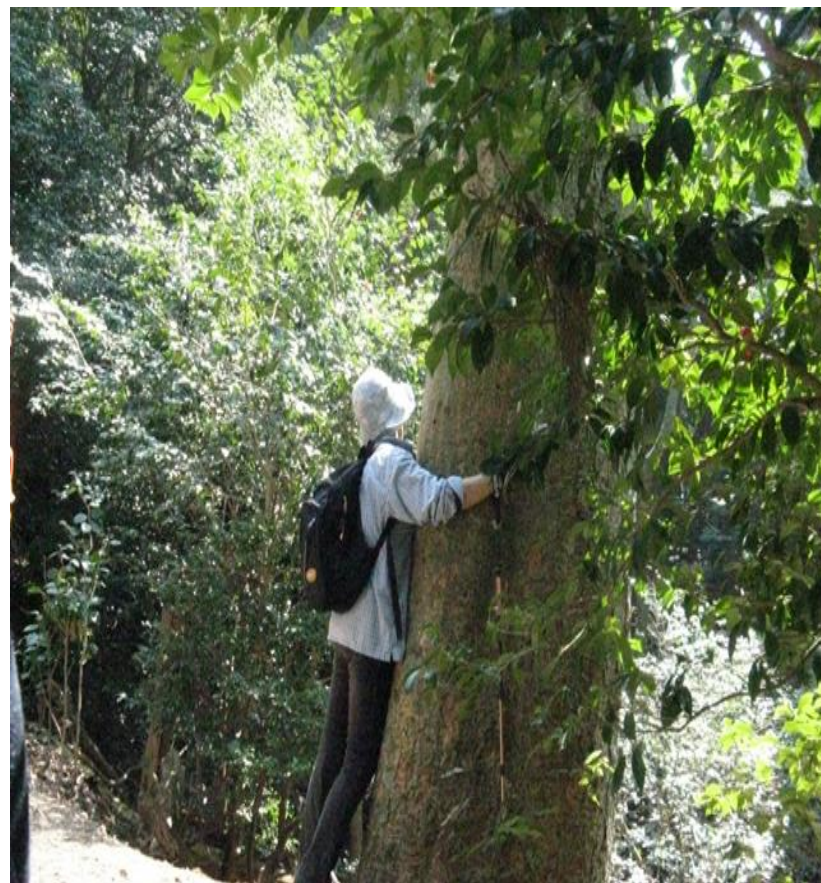


天上ヶ岳

天上嶽 当山の絶頂をいふ。役行者ここより昇天したまふと云ふ



箕面大滝 巖頭より飛瀉して、石面を走り落つる事、すべて十六丈、滝壺より泡を飛ばす事、珠をちらすごとく・霧を噴く事、雲のごとし。日光これを燭してさいさん目を奪ふ。天下賞して滝の第二とす。滝の上に碧潭あり。これを竜穴といふ。村民旱天に遇ふ時、ここに祈ればたちまち膏雨降るなりとぞ(摂津名所図絵より)。



大ケヤキ - 箕面の森ポイントE3



姫岩と云う巨石がある。岩は、まるで刃物で切られたように、縦に真二つに割れ、その間は、人がちょうど一人通れるくらいの隙間になっている。箕面の地質は約2億年前の丹波帯です。おそらく、潜在的な割れ目があった斜面上方の岩が大地震などで剥がれ落ち、その際、更に二つに割れた姉妹岩(泣き別れの姫岩説)と考えられます。姫岩があった元の岩壁(落石源)は斜面上方で確認済み。姫岩の名の由来も、箕面が役行者にゆかりの深いことから胎内くぐりにあやかっていると考えられます。

唐人戻り岩



次のような伝説が役行者御伝記図会に載せられている。

時は嵯峨天皇の頃、京の都にやって来た百済の役人(その頃百済は既に滅亡して存在しなかった筈だが)は、何を見ても唐と比べて小馬鹿にした。案内人が箕面へ連れて来た。

役行者が滝の上の龍穴に入って龍樹菩薩から法を受けたと説明すると、滝など子供の水遊びではないかと侮ったが、でも龍穴は見たいと云った。

滝道を進んで行くと巨石が道をふさいでいる。案内人は、その岩角をすりりと通り抜けたが、百済の役人は足を踏み外しそうなので、岩の上を越えてえて行こうとした。

そして、岩に登ろうとしたが、岩から転げ落ちてしまう。三度試みて三度失敗し、遂に諦めて引き返すことにした。そして、滝を見ることもなく京へ帰っていった。



開成(724～781年)は、奈良時代の僧。父は光仁天皇で、桓武天皇の庶兄。摂津国勝尾寺の開基と伝えられる。一般には開成皇子と称されることが多い。

765年(天平神護元年)宮中を出て勝尾山に入って禅居し、善仲・善算の二人の師に出会って出家・受戒した。両師の発願した大般若經書写の遺志を継ぎ、八幡大菩薩の加護を受けて6年の歳月をかけて完成させたという。勝尾山中にその經を安置する道場を建立し、弥勒寺(勝尾寺)と号したという。

781年(天応元年)に58歳で没し、摂津国の勝尾寺裏の最勝ヶ峰山頂に葬られた。墓は現在「開成皇子墓」として宮内庁管理となっている。



勝尾寺から中山寺へ向かう巡礼道をウツギ谷へ下った所に「しらみ地蔵」と呼ばれる高さ2m程の大きな石造の地蔵立像が立っている。なぜ、「しらみ」などと呼ばれるのかは定かではない。西国三十三観音巡礼たちの旅の安全を祈って、あるいは、巡礼の旅に行き倒れた人を弔うために、建てられたものとする。しかし、しらみ地蔵の「しらみ」は「白巳」であり白蛇であり水の神であり、稲作のための水が乏しい箕面の農民たちの祈りのかたちとの説もある。